

1 教科の到達目標（学習のねらい、身に付けたい力）

- 自然の様々な事物・現象などに、興味・関心や疑問をもち、意欲的に探究する力
- 知識を覚えることだけでなく、自然の様々な事物・現象などを、自分の頭で考え、科学的に考察し発表する力
- 目的をもって、観察・実験や調査を行い、基礎操作を習得し、取り組みをレポートにまとめる力
- 自然の様々な事物や現象について理解し、知識を身に付け、事物や現象を科学的に説明する力

2 年間学習計画と単元(題材)

担当 板村		
学年	題材名・単元名	内容
1 学 期	○化学変化と原子・分子 ・物質のなり立ち ・物質どうしの化学変化 ・酸素がかかわる化学変化	<ul style="list-style-type: none"> ・物質をつくる原子、分子 ・ホットケーキの秘密 ・物質を分解できるか ・異なる物質の結びつき ・化学反応式とそのモデル ・物質が燃える変化 ・酸化物から酸素をとる化学変化
2 学 期	○化学変化と原子・分子 ・酸素がかかわる化学変化(つづき) ・化学変化と物質の質量 ・化学変化とその利用 ○天気とその変化 ・気象の観測	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化物から酸素をとる化学変化(これまでの復習) ・化学変化と質量の変化 ・化学変化する物質どうしの質量の関係 ・化学変化と熱 ・気象の観測 ・大気圧と圧力 ・気圧と風
3 学 期	○天気とその変化 ・気象の観測(つづき) ・雲のでき方と前線 ・大気の動きと日本の天気	<ul style="list-style-type: none"> ・気象の観測(これまでの復習) ・水蒸気が水に変化するとき ・飽和水蒸気量と湿度 ・雲はなぜできるか ・前線の通過と天気 ・大気の動き ・日本の天気 ・水の循環 ・気象現象がもたらすめぐみと災害
担当 藤代		
学年	題材名・単元名	内容
1 学 期	○生物のからだのつくりとはたらき ・生物と細胞 ・植物のからだのつくりとはたらき ・動物のからだのつくりとはたらき	<ul style="list-style-type: none"> ・植物と動物の細胞 ・単細胞生物、多細胞生物 ・光合成と呼吸 ・根・茎・葉の構造とはたらき ・消化と吸収 ・呼吸のはたらき ・血液の循環
2 学 期	○生物のからだのつくりとはたらき ・刺激と反応(つづき) ○電流の性質 ・静電気と電流 ・電流の性質	<ul style="list-style-type: none"> ・刺激と反応 ・骨と筋肉のはたらき ・静電気・真空放電と陰極線、電流の正体 ・回路に流れる電流、加わる電圧 ・電圧と電流の関係
3 学 期	○電流の性質 ・電流の性質(つづき) ・電流と磁界	<ul style="list-style-type: none"> ・電気のエネルギー(つづき) ・磁界の中で電流が受ける力 ・モーターを回したときに発生した電流・直流と交流

3 評価方法

評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技能	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業（実験）プリント ・小テスト ・パフォーマンステスト
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業（実験）プリント ・提出物・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物・小テスト ・授業（実験）プリント ・振り返りシート・発言内容 ・観察・実験の取り組み方

*理科の学習では「自ら考え調べる」ことを大切にしています。理科の学習では、学習内容に関する知識や理解の様子を評価するだけでなく、課題を発見し解決する力、観察や実験の技能、観察や実験結果を発表する力など、定期考査だけでなく、技能テスト、レポート、実験プリントなどで評価されます。

4 授業の取組についてのアドバイス

(1) 毎日の授業について（当たり前のこと）

- ①チャイムがなる前に、授業道具を机の上に用意して、着席する。忘れ物はしない。
- ②板書事項など、ノートをしっかりとる。プリントはノートに貼る。
- ③課題に対しては、自分の頭でしっかり考え、積極的に発表する。
(考え方はいくつもあっていいものです。「間違えていないかな」と不安にならないこと)

(2) 観察・実験について

- ①理科室の使い方、実験道具の使い方などルールはしっかり守る。
- ②班や仲間と協力し、積極的に取り組む。
- ③「この実験は何を調べているのか」など、目的をしっかり頭に入れて取り組む。
- ④実験の考察(考えたこと、分かったこと、疑問に思ったこと)を、自分の言葉で文章にする。

不思議に思ったり、疑問をもったりすることはとても素晴らしいことです。探究心をもち続けよう。

5 家庭学習の進め方についてのアドバイス

(1) 予習

予習はやってこなくても、理解できるように授業は進めます。復習を行うことに時間を使ってください。

(2) 復習

復習は必ずやってください。授業のあった日、習った範囲の教科書を読む、そしてノートを見直す。覚えなければならぬ大切な語句を覚える。授業でやった問題をもう一度解く。随時ワークを解き進めてください。一度やったことなので、数分あればできるはずです。頑張ってください。分からないところは、友達や先生に聞いて、次の授業までに分かるようにしておきましょう。
分からないことはためないこと。分かることをためていきましょう。

(3) 宿題

実験プリントが中心です。実験後の考察とまとめが宿題になります。その日のうちに書きましょう。授業で学んだ科学的な見方を使いながら、科学的に思考した内容を表現できるようにする練習です。忘れずに提出しましょう。

6 定期考査前の取り組みについてのアドバイス

- ・授業のあとの復習をしっかり行うことが、一番大切です。
- ・ワークや授業中に行った問題などすべての問題を解けるようにしておくこと。
- ・学習した内容を自分でまとめたり、疑問点を記録したりして「オリジナルのノート」を自分でつくる。